

神戸にLRTが走ったら
それだけで最先端。

道路に電車が走るだけでも
わくわくするし、
そのまちを訪れたいくなる。

車と違ってLRTだったら
気軽に乗り降りしながら行きたい場所に行ける。

LRTの乗り場自体が
広場のような空間になれば、
人が集まって過ごせる場所になる。

高齢者の方と子ども専用の車両があれば、
交流が生まれて素敵な空間になる。

LRTがまちを
「歩いてゆっくり楽しむこと」を
アシストしてくれる。



LRTが走る 未来のKOBEを 考える座談会 報告書

令和4年3月

かつて神戸のまちには路面電車が走り、活気があふれていた。
そして時代とともに路面電車は役割を終えた。

あれから50年。
未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災を乗り越え、
未来にむけて走り出している神戸。

もしも、その未来にLRTが走っていたら…

まちなみが変わる？暮らしが変わる？
わくわくするライフスタイルが待っている？
昼も夜も。神戸をもっと楽しめる？

ひとりでも。家族や友達とでも。
仕事帰りにふらっと？
買い物や散歩のついででもいいかも。
小さな子どもから、お年寄りまで。

みんながもっと
わくわくする未来へ。



INDEX

P.3 神戸の未来を考えてみる

1章 LRTでどう変わる？

P.6 1. LRTが走るまちへの期待

P.8 2. LRTが走ることで広がるまちの楽しみ

P.10 3. みんなにやさしいLRT

P.11 4. 低炭素社会につながっていく

2章 LRTでどうなってほしい？

P.13 1. こんなLRTになってほしい

P.15 2. LRTでもっと移動が便利になってほしい

P.17 3. わくわくするLRTになってほしい

P.19 委員一覧／開催概要／開催状況

神戸の未来をを考えてみる

神戸市では、都心三宮からウォーターフロントエリアにかけてまちの姿が大きく変わり、新たなにぎわい・人の流れが生まれつつあります。これからの中長期的な神戸の都心の未来を考えていくため、回遊性向上とまちづくりの両面から都心にふさわしい移動手段を検討しているところです。

海外では多くの都市で、誰にとっても使いやすい、人にやさしい移動手段として「LRT(Light Rail Transit:次世代型路面電車システム)」が走り、まちの魅力を高めています。

もし、神戸でも「LRT」が走ったら、どんなまちの姿になるのか。「LRTが走る未来のKOBEを考える座談会」において、様々な分野に精通する方々とともに考えました。



LRT(Light Rail Transit)とは

LRT(Light Rail Transit:次世代型路面電車システム)は、低床式車両(LRV)やバリアフリー化された乗り場により、高齢者やベビーカー・車いすの方、荷物が多い方でもスムーズに乗降できるなど、さまざまな面で優れた特徴を持ち、「誰にとってもやさしい」を目指す次世代の軌道系交通システムのことです。海外の多くの都市で導入されています。

LRTの優れた主な特徴



誰にでも乗降しやすいフラットな車内



優れたシンボル性(景観・空間形成)



バリアフリーに対応した乗り場。騒音や振動が少なく快適



専用レール(軌道)による定時性・速達性

かつて「東洋一の市電」とも呼ばれた路面電車が神戸を走っていた!

神戸市にもかつて路面電車が走っていました。1910年、神戸電気鉄道によって兵庫と神戸の両市街を結ぶ路面電車が開業され、1917年には神戸市が引き継ぎ、神戸市電となりました。市電は神戸市の発展に伴い路線を拡大し、都心を中心に石屋川から須磨のあたりまで複数の路線が走っていたようです。全盛期には35.6kmの路線網を有していましたが、モータリゼーションの進展に伴い、1971年に全線が廃止されました。



出典:神戸市交通局100年史

1章

LRTで どう変わる？

未来のまちへの期待

LRTが走る
未来のKOBEを
考える座談会

報告書

1. LRTが走るまちへの期待

LRTをきっかけに人の流れが変わり、まちの印象やインパクトが大きく変わる。「LRTが走る神戸」自体がブランド。神戸のまちに溶け込むようなデザイン性の高いLRTが走ることで、新たなまちなみを生み出し、躍動感の伝わるまちになっていく。

① まちの魅力

道路に電車が走るだけでも
わくわくするし、
そのまちを訪れたいくなる。

海外ではLRTがまちなかを走ること
でゆっくりと時間が流れている。
未来の神戸でも、こんな時間の流
れを感じられると良い。

神戸にLRTが走ったらそれだけで最先端。

お洒落なデザインの
LRTの存在は、
「そのまちに住みたい」
「働きたい」というまちの
価値向上につながる。



山下 裕子 座長

こんなLRTもある！ 海外の参考事例

ヨーロッパのLRTはとてもお洒落なものが多く、形やカラーリングも様々。LRTが走ることでまちが映え、歴史的建築物が残るまちなみと最新の車両が美しい風景を生み出す。それをカフェテラスで眺めているだけでも楽しい。



ランス (フランス)



アムステルダム (オランダ)



チューリッヒ (スイス)



マヨルカ島 (スペイン)



ヘルシンキ (フィンランド)



ストラスブール (フランス)

② まちの風景

単なる移動手段ではなく、神戸の日常に溶け込むようなLRTのデザインを考えていくとよい。

架線がない路線は景観上とても魅力的。台風などの災害対策面でもよい。

LRTは神戸のまちにとても似合う。

レール上に芝生が広がるなど、緑が沢山ある路線になると、神戸の中心街が大きな広場のように感じられる空間となる。

市電がまちの風景に溶け込んでいたことは、神戸の良い文化だった。

LRTがまちを「歩いてゆっくり楽しむこと」をアシストしてくれる。

神戸は点在する観光スポットの間にも魅力が詰まっており、歩いて気付けることが多い。車ではなくLRTだったら気軽に乗り降りしながら回遊できる。

③ 歩きたくなるまち

LRTが走る未来には、車が減り、道路の使い方が変わっていくかもしれない。緑化が進み、自転車道が整備されていくことも期待したい。



2. LRTが走ることで広がるまちの楽しみ

まちなかを走るLRTだからこそ、まちのあちこちへの距離がぐっと近くなる。仕事終わりにふらっとLRTに乗り込んでお気に入りのカフェへ行ったり、乗ったままぼんやりと考え事をしたり。安心して乗れる移動手段で神戸のまちの楽しみ方も広がり、神戸の未来のライフスタイルが変わっていく。

① LRTがある日常

LRTはまちなかを走るの電車よりも気軽に乗りやすい。「ちょうど来たのでちょっと乗ってみる」ということから行動範囲が広がり、まちが広がっていく。

窓が大きいLRTは、安心感があり、1人でも乗りやすい。

都心での車移動が減り、駐車場スペースがお店や公園など、みんなが楽しめる空間に生まれ変わっていく。

芝生広場で本を読んだり、コーヒーを飲んだり。家族がそれぞれの場所で楽しみながら、LRTで気軽に合流できる。



もし環状線のLRTだったら、まちなかをメリーゴーランドに乗っているように巡れる。考え事をしながら一周するような素敵な時間も作れる。

大きな車窓からフラワーロードの花が見えるだけでもすごく豊かな光景。移動手段としてだけでなく、移動そのものも楽しめるようになる。

池端 浩美 委員

その他の意見

ヨーロッパではLRTから広場や市場を見かけて、ちょっと今日はここで降りようか、というライフスタイルがあると聞いたことがある。未来の神戸でもそんな日常が待っているかもしれない。

LRTの年間パスポートがあると気軽に移動できる。さらに、食事やイベントなど「今日いきたいところ」が見つかる情報発信もあれば、まちがもっと面白くなる。



② LRTで過ごす夜の風景

仕事終わりの会社員が
LRTで神戸のまちなみを眺めながら
ウォーターフロントに移動。
夜の神戸を楽しみ、
またLRTに乗って帰っていく生活が
待っている。

LRTで神戸のナイトカルチャー、ナイトライフの魅力があがる。

神戸の観光は昼のイメージが強く、港でも夜は何もやっていないことが多い。
LRTがあれば気軽に足を伸ばして神戸の夜景を楽しめる。観光客が神戸で夜を過ごすために宿泊することも期待できる。



その他の意見

大人たちが毎日の暮らしや移動を楽しみ、暮らしの選択肢を広げることが、子どもたちのためにもなり、子育てしやすいまちを作っていくことにつながる。

夜にはLRTの車内照明を一斉消灯して夜景だけを楽しむ時間を作る、週末にバーカウンター車両が現れるなど、車内コンテンツがあると夜の神戸をもっと楽しめる。



土居 幸子 委員

3. みんなにやさしいLRT

LRTは“水平なエレベーター”と表現されることもある。専用レールを走り、行き先がわかりやすいLRTは安心感があり、初めて訪れた場所でもまちの雰囲気を手軽に知ることができる。段差がない乗り場やフラットな車両は、どんな人にとってもやさしい。

① 初めて訪れるまちでも安心して乗れる

レールがあると、
地図にも載っていて
走行ルートや行き先を
視覚的にたどることができるので、
誰にとっても分かりやすい。

外国の方にはバスが難しく、日本人でも路線バスに苦手意識を持つ人もいます。
レールの上を走る安心感は魅力。

専用レールを走っているため、時刻表どおりの運行が期待できる。

バスよりも気軽に飛び乗ることができる。

② まちを知る手段になる

窓からまちを眺めながら、
予定になくても
“面白そうだから降りてみる”、
という行動につながる。



ぐるぐる走っているので、歩くことに疲れたら乗ればよい、という安心感が魅力。

開放感ある大きな窓からまちを広々と見られることを期待。

特に外国の方は、地下鉄の地図をもらっても理解しにくい。

その他の意見

スイスでは、ホテルの宿泊客にLRTの無料乗車券をくれる。車や飛行機で訪れた場合でも、LRTに乗ってまちを巡り、まちの魅力を知ってもらえることができる。



楠田 悦子 委員

③ バリアフリーで行動範囲が広がる

段差がある鉄道やバスを利用するとき、介助を受けることに抵抗感のある方もいる。誰かの手を借りず、1人でも乗り降りできる車両があることで暮らしが変わる。

障害のある方も
もっと移動しやすくなり、
日常の移動が広がる。

高齢者で車の運転に自信がない方でも気軽に乗れる。

車を生涯運転し続けることは難しい。LRTやそれ以外の公共交通、モビリティが使いやすいものとなり、出かけることが制約されない神戸のまちになってほしい。

その他の意見

高齢者や車いすの方も、神戸に来たときには神戸らしいおしゃれなモビリティで移動できれば素敵。

若い方から高齢者まで乗っている姿が未来の神戸として理想。

武頼庵S.寧尊 委員

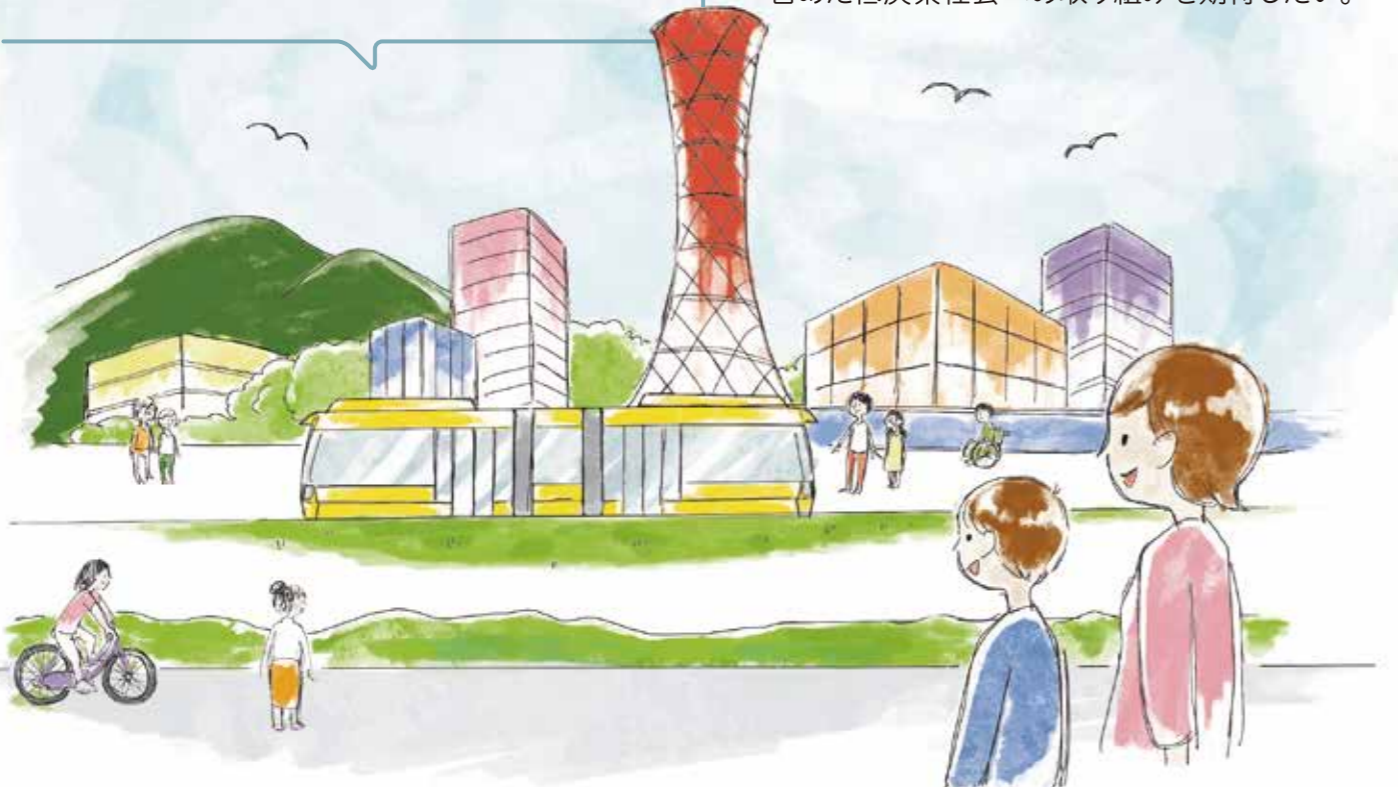


4. 低炭素社会につながっていく

電気で走り、排気ガスを出さないLRTは、環境負荷が少ない。都市部での移動が車からLRTでの移動へ変わっていくと、環境にも人にもやさしいまちになっていく。

LRTと組み合わせて、
徒歩や自転車で移動する人が
増えると、車が減り、環境にもよい。

ヨーロッパでは国民の環境意識が強く、都市部の車を減らし、移動手段のシェアリングサービスや環境にやさしい移動手段を使う取り組みが進んでいる。国際都市である神戸でも、LRTも含めた低炭素社会への取り組みを期待したい。



2章

LRTで どうなってほしい？

“乗ってみたい”を 後押しするLRTの姿

LRTが走る
未来のKOBEを
考える座談会

報告書

1. こんなLRTになってほしい

都心三宮からウォーターフロントや様々なスポットがつながれば、神戸の魅力が面的に広がっていく。LRTの乗り場、そして車内空間が、そこで時間を過ごしたくなるような場所になるかもしれない。

① こんなルートを走ってほしい

都心三宮からウォーターフロントなど、「えき〜まち空間」を中心にさらに各方面に移動できると神戸の魅力が広がっていく。

道路が広いフラワーロードでは、LRTや自転車レーンが整備されるとよい。

新神戸や北野、旧居留地、元町、観光を楽しめる六甲ケーブル方面、海が見える須磨など、LRTで移動できる選択肢が増えると、日常生活がもっと楽しくなる。

夏場、三宮からメリケンパークにかけての移動は日影がなく大変。ウォーターフロントエリアへの移動手段があると便利。

神戸には魅力的な夜景スポットが沢山あるが、一度に複数行くのは難しい。LRTでウォーターフロントから他の場所にも巡れるとよい。



イメージバス(三宮クロススクエア(第2段階)東側)

「えき〜まち空間」とは

神戸市では、三宮の「えき」(6つの駅とバス乗降場)と「まち」をつなぐ空間を「えき〜まち空間」と名付けて、誰にとっても使いやすい、神戸の玄関口にふさわしい空間として整備しています。

また、「えき〜まち空間」の核として、まちなかを車中心から人中心の空間へと転換し、人が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと変化させることで「人が主役の居心地の良いまち」とするため、三宮交差点を中心に税関線(フラワーロード)と中央幹線の一部において、人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」の創出を目指しています。

② “電停”がまちのスポットになってほしい

※電停…路面電車の停留所

電停にまちのテラス空間や玄関のような機能をもたせて「まちのスポット」になってほしい。

LRTの乗り場にベンチやカフェを設置するなど、人が集まって過ごせる広場のようになれば。

パンダやポートタワーの像を作るなど、電停がシンボライズされると「LRTが走る神戸」をブランド化でき、興味を持って訪れる人も出てくる。

各電停で、地域ごとの個性や特色が出せればよい。



③ 誰もが使いやすい車両になってほしい

女性専用車両を朝9時半以降は、子連れの方優先車両にしてみるなど、本数限定でも特別な時間帯が欲しい。

子どもや車いすの方でも景色を楽しめる大きな窓、座席がなくて子どもたちがぞろぞろと居てもいいスペースなど、車内に配慮の視点があるとよい。

神戸の好きなスポットをシェアできる掲示板を車内に設置して、住んでいる人しか知らない情報を発信できれば、より心に残る。

高齢者の方や子ども専用の車両があれば、交流が生まれて素敵な空間になる。

ベビーカーや車いす、大きな荷物を持った方がそのまま乗れるゾーンがあると誰もが使いやすい。



その他の意見

子どもは移動そのものを楽しんだり、大人が働いている姿や光景を見ていたりする。大人とは感性や視点が違う。子どもたちの視点にも立って考えられるとよい。

小笠原 舞 委員

2. LRTでもっと移動が便利になってほしい

鉄道や車、自転車など様々な移動手段とサービスを組み合わせることで、さらに便利になっていく。特に車移動は、駐車場から駐車場への移動になりがち。LRTと組み合わせることで気軽に乗り降りすることで、まちでの新たな楽しみと出会うかもしれない。

① パーク&ライド(車と組み合わせ)

車は地下駐車場に停めて、地上の緑化空間をLRTが走るような都心になってほしい。

指定駐車場の利用でLRTが「無料乗車」できるパーク&ライドサービスがあると嬉しい。

駐車料金や交通乗車券などがパッケージ化されたサービスがあると便利。

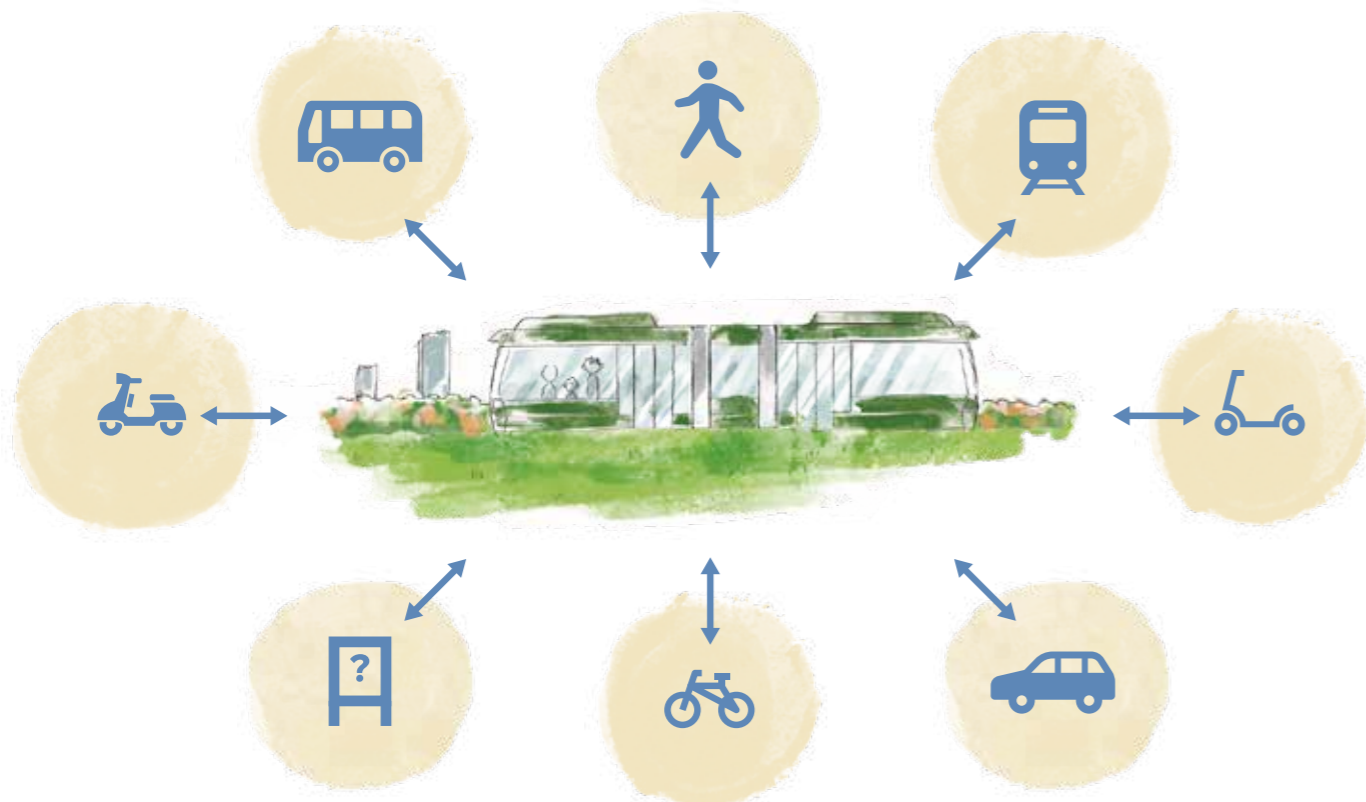
こんな状況が変わるかも?

駐車場の料金設定によっては、滞在時間が短くなってしまっている。

子育て世帯は車での移動が多いため、目的地付近の駐車場から駐車場への移動となってしまう。

三宮周辺はよく渋滞している。

車と違ってLRTだったら、気軽に乗り降りしながら行きたい場所に行ける。



② サイクル&ライド(自転車と組み合わせ)

LRTが走ることで車が減り、「駐車場」が「駐輪場」に変わっていくかも。

コロナ禍で仕事や趣味での自転車活用が増えている。神戸の恵まれたロケーションを活用したLRT&サイクルができれば。

海外のように、週末限定で自転車や荷物だけを載せられる特定の車両があってもよい。

その他の意見

子連れだと自転車が借りられない。小さい子どももヘルメットと自転車を借りられると、神戸ならではの面白い取り組みになる。



大石 陽介 委員

③ 乗り換えをもっと便利に(モビリティスポット)

気分や疲れに合わせて様々な移動手段を選択できるとよい。目に入るところに次のモビリティがあると、連続性が生まれる。

LRTは車両が長いので、海外のように信用乗車方式*によりどの乗降口からでも降りられるとよい。

※信用乗車方式
公共交通機関を利用する際に、乗務員(運転士や車掌)が運賃の支払いをチェックせず、支払いを利用客の良心に任せる方式。すべての扉から乗降が可能に。

海外のようにLRTの電停で色々な移動手段に乗り換えられると魅力的。

その他の意見

公共交通機関が敬遠されることもある昨今は、健康面の対策も含めた発信が必要。

海外では公共交通機関の車体や案内表示のカラーリングを統一している事例もある。



「モビリティスポット」とは

様々な移動手段の接続・乗り換え拠点となる場所。バスやタクシー、小型モビリティ、シェアサイクルなどの乗降場に留まらない「情報発信」、「休憩施設」、他の交通への「結節機能」を兼ね備えた移動支援の拠点のこと。

(国土交通省『2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～』より)

3. わくわくするLRTになってほしい

最先端のテクノロジーを活用して、すべての人にとって“もっとわくわく”、“もっとストレスフリー”な移動を提供してほしい。ただの移動手段ではなく、“神戸で乗ること”自体が心に残るようなLRTになってほしい。

① 移動がもっと便利になるサービス

- ・アプリによる決済に加えて、目的地への移動や滞在にかかる時間、バスの到着時間予告などの通知
- ・アプリを都度起動しなくても、近くに行けばお勧めスポットがプッシュ通知される機能
- ・「最速ルート」に加え、「眺めのよいルート」優先のナビ検索機能
- ・「LRTが荷物だけ目的地に運んでくれるサービス」や「各駅の荷物預かりスポットに自動配送してくれるサービス」



その他の意見

効率性や便利性を求めると、人と喋る機会が減るのはよくない。神戸では、子どもの教育やリテラシーなど、便利さだけではない面を一緒に考えることができればよい。

② ストレスフリーな決済手段

- ・財布を出さなくても乗れる、顔認証の決済サービス
- ・定額制の移動サービス(サブスクリプション)
- ・乗り放題券を後から買ってあげれば良かったと思うことがあるので、複数回乗れば自動的に一日乗車券に切り替わるサービス

その他の意見

ヨーロッパでは、エリア内の公共交通機関が乗り放題となる仕組みがアプリで提供され、非常に利便性が高い。

定額で「気軽に」利用できることはすごく大事。

こんなサービスとも連携してほしい!

- 目の前に映像や矢印が出て、音声等でナビができるテクノロジー(ウェアラブルデバイス)
- 地域通貨を活用した仕組み(地域活動で付与されたポイントでLRTに乗車できるなど)
- 観光マップとスタンプラリーを組み合わせたスマホサービス(各電停で降車するきっかけづくり)
- 電停にあるデジタルサイネージを活用した仕組み(沿線のコインロッカーの空き情報や周辺店舗の混雑情報を把握できるなど)

マース「MaaS(Mobility as a Service)」とは

地域住民や旅行者一人ひとりの移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービスとも連携することで、移動の利便性向上や地域の課題解決が期待されている。

③ わくわくする未来の車内体験

コロナ禍のオンラインツアーでは、現地に行かずに楽しめる仕掛け(現地にいるロボット経由で参加する旅行サービス)がある。LRTの車内でも活用できると、遠方の方にも神戸を発信できる。

かつての市電のルートがわかる古地図と現在の地図を切り替えながら、LRTの現在走行地点を見られるロケーションシステムがあれば。

窓ディスプレイやAR(拡張現実)での観光ガイド・昔の神戸の風景と重ねられるサービスがあると楽しめる。

近くのおいしいお好み焼き屋など、地元の人しか知らない場所が知れると嬉しい。手描きで地図を描いてもらい、実際の地図に重ね合わせて車内サイネージなどで見られるともっと楽しめる。MR(Mixed Reality: 複合現実)機能をもつゴーグルで描いてもらった絵をバーチャルに見せる、といったこともLRTのアトラクションとして考えていける。



その他の意見

スマホやアプリを使いこなせない方もいるので、テクノロジーだけではない人の温かさやサポートも考えていけるとよい。

人との触れ合いを作っていくことも、まちの大切な機能。



佐合 純 委員

LRTが走る
未来のKOBEを
考える座談会

報告書

LRTが走る 神戸の未来へ



委員 五十音順 敬称略 / ◎…座長

池端 浩美 ゲストハウス神戸なでしこ屋 代表

大石 陽介 株式会社フェリシモ 経営企画室 経営管理部 部長代理

小笠原 舞 合同会社こどもみらい探求社 共同代表

楠田 悦子 モビリティジャーナリスト

佐合 純 iC株式会社 代表取締役

土居 幸子 株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸神戸店 営業推進部マネジャー

武頼庵S.寧尊 有限会社ガイジンプズ 代表取締役

◎ 山下 裕子 まちなか広場研究所 主宰

LRTが走る 未来のKOBEを 考える座談会

報告書



開催概要

神戸市では都心三宮からウォーターフロントエリアにかけて大規模な再開発が進んでおり、将来の移動需要を見越し、回遊性向上のための移動手段の検討を行っています。

この度、未来の“神戸らしい都心の姿”を考えていく上で、回遊性を促す多様な移動手段の1つである「LRT(Light Rail Transit:次世代型路面電車システム)」をテーマに取り上げ、神戸にゆかりがあり、様々な分野の経験を有する方々に、LRTがまちの回遊性や魅力向上にどうつながるか幅広く意見をいただきました。

第1回座談会

日程 令和3年8月17日(火曜)
場所 神戸ポートオアシス 503会議室(神戸市中央区新港町5番2号)
内容 ①座談会の開催趣旨について
②都心三宮・ウォーターフロントの再整備、LRTについて
③意見交換「景観の変化・まちなみがどう変わるか」(中心テーマ)
※座談会開催前に、ポートループに乗車

第2回座談会

日程 令和3年12月7日(火曜)
場所 神戸市役所1号館14階大会議室(神戸市中央区加納町6丁目5番1号)
内容 ①座談会の開催趣旨について
②第1回座談会の振り返りについて
③意見交換「利用者の観点/未来のまち・ライフスタイルへの期待」(中心テーマ)
※座談会開催前に、ウォーターフロントから都心エリアを視察

第3回座談会

日程 令和4年1月25日(火曜)
場所 神戸市役所4号館1階本部員会議室(神戸市中央区加納町6丁目5番1号)
内容 ①座談会の開催趣旨について
②第2回座談会の振り返りについて
③意見交換「新たなテクノロジー・他のサービスとの連携」(中心テーマ)